

科目名	子ども学総論【子ども・心理】				開講 キャンパス	神園
担当者	香川せつ子・平田 孝治・上赤 博文・マーク ハドソン・ 青木 研作・円城寺しづか・田中 麻里					
開講年次	1	開講期	前期	単位数	2	必修・選択 必修
授業の概要 及びねらい	<p>今日ほど「子どもの問題」が問われている時代はかつてない。少子化や家族や地域社会の変容、科学技術の進歩がもたらした情報化や日常生活の過剰な利便化は、子どもの健やかな発達を阻害し、子育てに悩む親を生み出すと考えられている。こうした現代の子どもの問題に向き合い、その本質を捉えて、子どもたちの心と体の成長や発達を支援するためには、教育学や保育学といった既存の学問領域にとらわれず、学際的な視点から「子ども」にアプローチしていく必要がある。本講義では、子どもが自然や社会の環境との相互作用を通して成長・発達することをふまえて、生物学的・社会的存在としての「子ども」を、広く人類史的観点から概観し、その本質や特性について考える。授業は、オムニバス方式により、①子どもと環境、②人類学から見た子ども、③歴史の中の子ども、④医学からみた子ども、⑤少子化社会の子どもについて解説する。</p>					
授業の到達目標	<p>①子どもをとりまく環境について科学的側面から理解し、考えることができる。 ②人類学的視点から、人間の子どもの生物学及び文化的な特徴について説明できる。 ③子育ての営みを歴史的文脈の中で、客観的に理解することができる。 ④乳幼児死亡率の高かった過去の時代において、子どもがどう取り扱われてきたかに関心を持つ。また、そのことについて説明することができる。 ⑤現代の学校や家族の制度につながる、子ども期の概念の歴史的生成を知る。 ⑥身体から見た子どもの特徴や育ち、また発達障害について理解する。 ⑦子どもの生活の中での権利と育ち、また子育て支援の現状と施策および課題について述べることができる。</p>					
学習方法	オムニバス形式での講義（プリント、ビデオ等使用）を中心とする。また、担当者ごとに課題提出を求める。					
テキスト及び参考書等	<p>テキスト：西九州大学子ども学研究会編「子ども学のすすめ」佐賀新聞社 上記テキストを使用する。講義の中で必要な資料、レジュメを配布するほか、参考書を指示する。 「人類学から見た子ども」参考書：波平惠美子「生きる力をさがす旅—子ども世界の文化人類学」出窓社</p>					
評価基準・方法	到達目標					評価割合%
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現		
定期試験						
小テスト等	○	○	○	○		
宿題・授業外レポート	○	○	○	○		
授業態度			◎			
受講者の発表						
授業への参加度			◎			
その他	○	○	○	○	100	
	各論ごとに小テストや課題レポート等で評価される。					
合計					100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)						
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）						
第1週	オリエンテーション（シラバスの説明）／子どもと環境① 自然・生活の環境 【平田・田中】					
第2週	子どもと環境② 安全・健康面の環境 【平田】					
第3週	子どもと環境③ 自然環境の変容と子どもの自然体験 【上赤】					
第4週	人類学からみた子ども① 子どもと人類のライフヒストリー 【ハドソン】					
第5週	人類学からみた子ども② 子どもの世話の民俗学 【ハドソン】					
第6週	人類学から見た子ども③ 人類学から見る近代と子どもの問題 【ハドソン】					
第7週	子どもと子育ての歴史① 子どもの発見 【香川】					
第8週	子どもと子育ての歴史② 捨て子と児童労働 【香川】					
第9週	変化する社会と文化の中の子ども① 日本社会の子育て・教育 【香川】					
第10週	変化する社会と文化の中の子ども② 子育て・教育とジェンダー 【香川】					
第11週	変化する社会と文化の中の子ども③ 多文化共生社会にむけての子どもと教育 【青木】					
第12週	医学から見た子どもの育ち① 子どもの身体的特徴 【円城寺】					
第13週	医学から見た子どもの育ち② 子どもの病理と発達障害 【円城寺】					
第14週	子どもの生活経験と子育て支援① 子どもの権利と子どもの育ち 【田中】					
第15週	子どもの生活経験と子育て支援② 家族・地域社会の現状、子育てに関する施策 【田中】					
第16週						
備考						